

2022年6月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社エンビプロ・ホールディングス
2021年11月12日



目次

1. 第1四半期 決算概要
2. 2022年6月期 見通し
3. 中期経営計画と今期の取り組み
4. 配当方針
5. 参考資料

1. 第1四半期 決算概要

第1四半期 ハイライト



連結業績

売上高	14,292百万円	(前年同期比 92.1%増)
営業利益	795百万円	(前年同期比 516.1%増)
経常利益	921百万円	(前年同期比 325.0%増)
四半期純利益※	666百万円	(前年同期比 377.2%増)

主要TOPICS

- 鉄スクラップ価格（東京製鐵田原海上特級価格）の期中平均価格は49,461円と前年同期の23,225円を上回って推移
- 銅、アルミ、ニッケル、コバルトの平均価格も前年同期を上回って推移
- 新型コロナウイルス感染再拡大に伴う一部海外地域への金属スクラップ輸出の停滞
- 世界的な輸送用コンテナ不足等を背景とする配船難により海上運賃が高騰
- 脱炭素社会への動きに関連して、CO₂排出低減効果から金属スクラップ活用の評価が向上
- リチウムイオン電池リサイクル事業は大手電池メーカーからの仕入や処理受託に加え、集荷・生産・分析・販売体制の整備が進捗
- 新工場建設計画を公表（2022年12月竣工、総投資額 約15億円）

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益
（金額、数量は切り捨て表示：％は四捨五入表示）

連結損益計算書概要



(単位：百万円)

	2021年6月期 第1四半期	2022年6月期 第1四半期	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	7,439	14,292	6,853	92.1%
売上総利益	1,544	2,600	1,055	68.4%
営業利益	129	795	666	516.1%
経常利益	216	921	704	325.0%
税金等調整前 四半期純利益	215	926	711	330.4%
四半期純利益※	139	666	526	377.2%
限界利益※	1,535	2,269	733	47.8%
EBITDA※	314	962	648	206.1%
純粹固定費※	1,384	1,474	89	6.5%

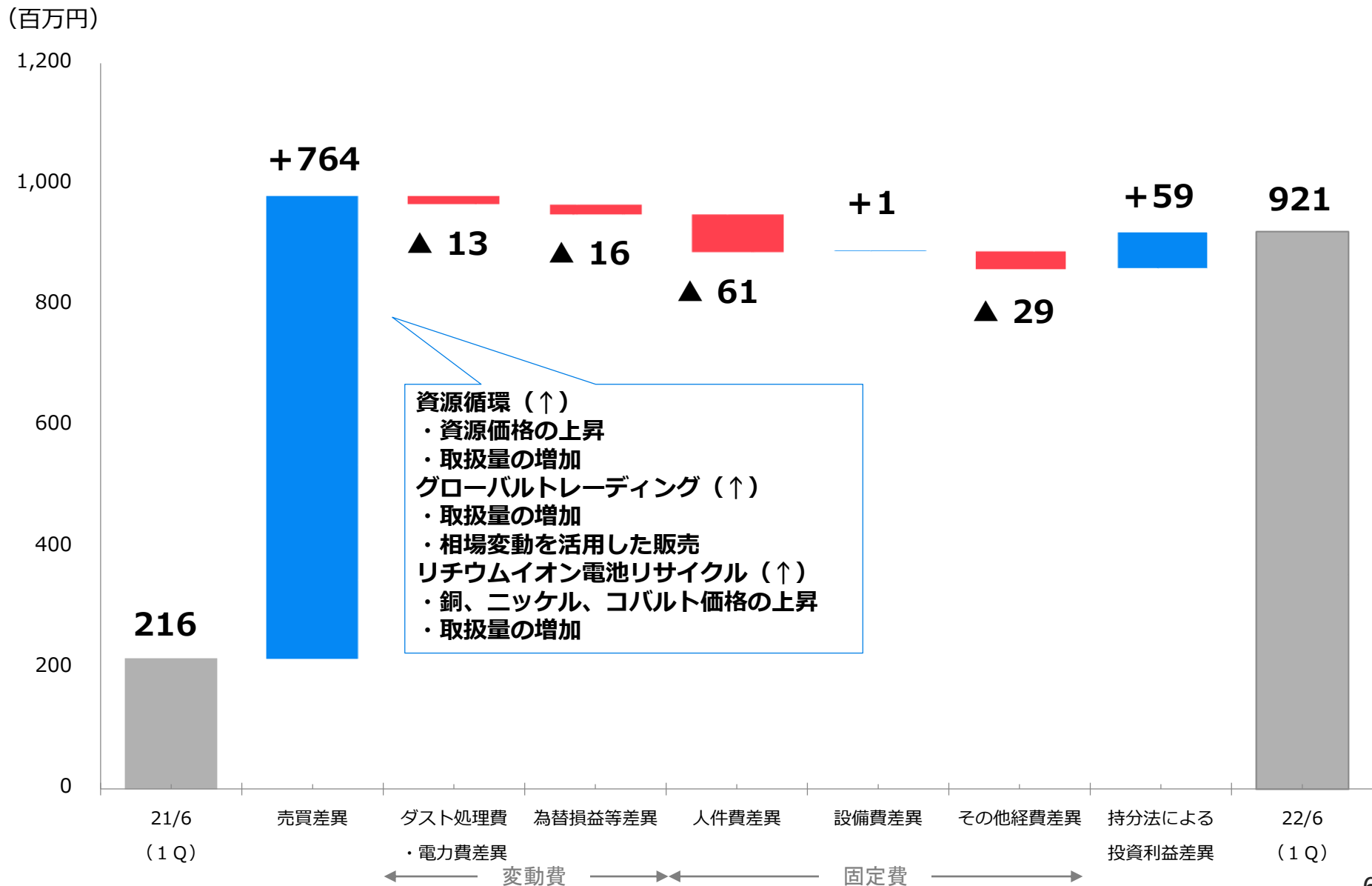
※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

※限界利益＝売上高－変動費

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却

※純粹固定費＝【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】－【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

連結経常利益差異分析（前年同期比）



連結業績推移

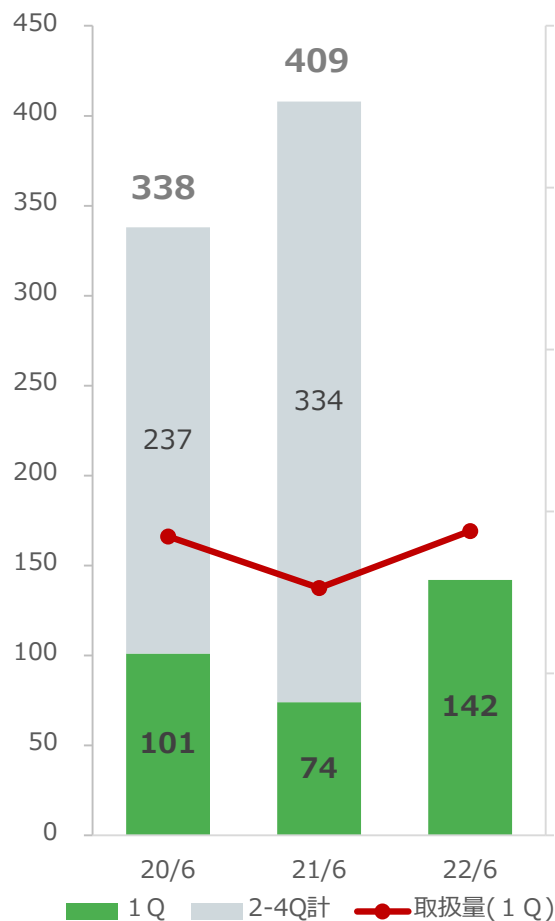


売上高（取扱量）

前年同期比
92.1%増

(単位：億円)

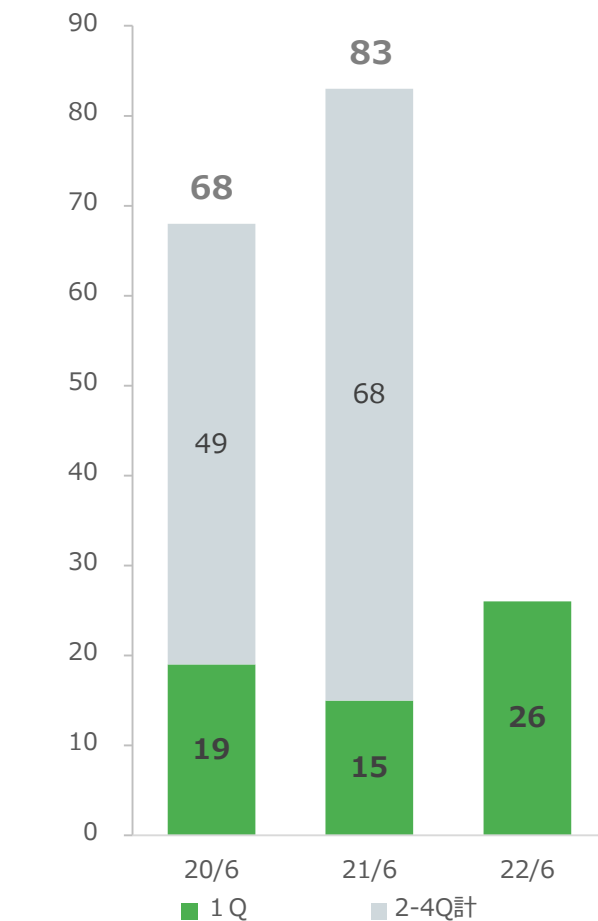
(単位：千 t) (単位：億円)



売上総利益

前年同期比
68.4%増

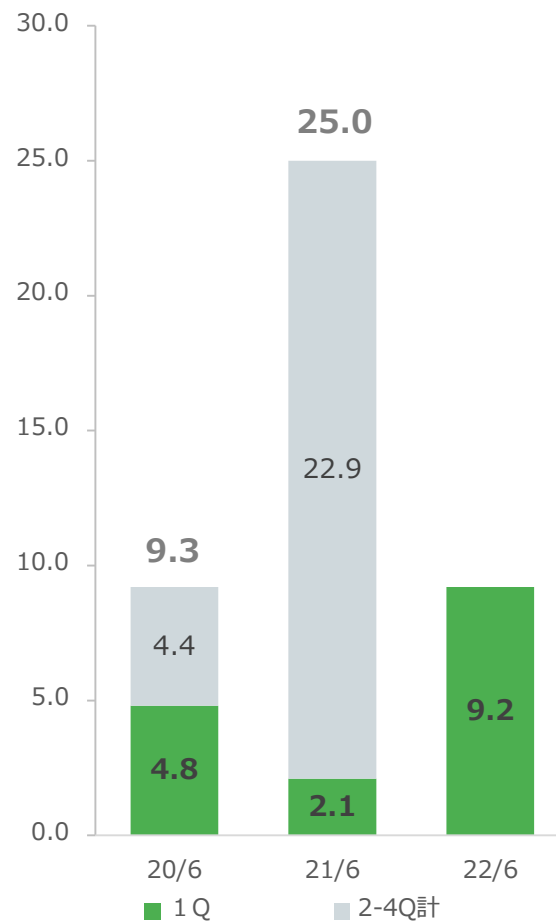
(単位：千 t) (単位：億円)



経常利益

前年同期比
325.0%増

(単位：億円)



セグメント別業績概要



(単位：百万円)

売上高	2021年6月期 第1四半期	2022年6月期 第1四半期			
	実績	実績	前年同期比		構成比
			増減額	増減率	
連結	7,439	14,292	6,853	92.1%	100.0%
資源循環事業	2,795	4,762	1,966	70.4%	29.5%
グローバルトレーディング事業	5,356	11,109	5,753	107.4%	68.8%
リチウムイオン電池リサイクル事業	62	147	84	133.7%	0.9%
その他	94	127	32	34.0%	0.8%
調整額	▲ 870	▲ 1,853	▲ 983	-	-

セグメント利益	2021年6月期 第1四半期	2022年6月期 第1四半期			
	実績	実績	前年同期比		構成比
			増減額	増減率	
連結	216	921	704	325.0%	100.0%
資源循環事業	242	685	442	182.1%	65.2%
グローバルトレーディング事業	61	302	240	387.7%	28.7%
リチウムイオン電池リサイクル事業	▲ 37	18	56	-	1.8%
その他	31	45	14	46.9%	4.3%
調整額	▲ 81	▲ 130	▲ 49	-	-

セグメント別業績概要



(単位：百万円)

		2021年6月期 第1四半期	2022年6月期 第1四半期			
		実績	実績	前年同期比		構成比
				増減額	増減率	
資源循環事業	売上高	2,795	4,762	1,966	70.4%	29.5%
	セグメント利益	242	685	442	182.1%	65.2%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 鉄スクラップ、非鉄金属の平均価格は前年を上回って推移 ▶ 大型シュレッダーから生産される鉄スクラップの上級品種への需要増加により下級品種との価格差が拡大 ▶ 大型解体物件から排出される鉄スクラップ仕入の影響による取扱量の増加 					
グローバル トレーディング事業	売上高	5,356	11,109	5,753	107.4%	68.8%
	セグメント利益	61	302	240	387.7%	28.7%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 輸送用コンテナ不足等を背景とする配船難により海上運賃が高騰 ▶ 新型コロナウイルス感染再拡大に伴う一部海外地域への金属スクラップ輸出の停滞 ▶ 国内需要の取り込み及び前期に実施した国内ヤード増設による販売量の増加 ▶ 物流代行サービスの価格転嫁及びRORO船の活用増加等による収益確保 					

セグメント別業績概要



(単位：百万円)

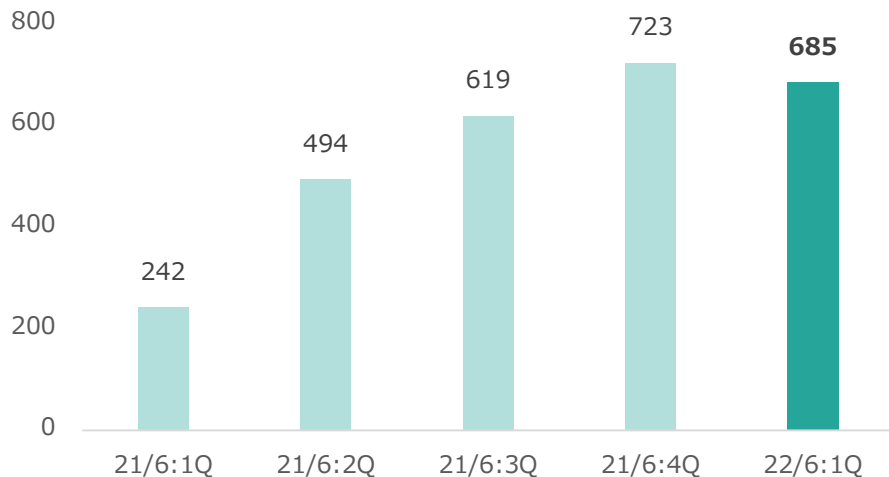
		2021年6月期 第1四半期	2022年6月期 第1四半期			
		実績	実績	前年同期比		構成比
				増減額	増減率	
リチウムイオン電池 リサイクル事業	売上高	62	147	84	133.7%	0.9%
	セグメント利益	▲ 37	18	56	-	1.8%
その他	売上高	94	127	32	34.0%	0.8%
	セグメント利益	31	45	14	46.9%	4.3%
	<p>「環境経営コンサルティング事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ CDP評価向上支援、カーボンニュートラル戦略立案及びTCFD対応支援、サーキュラーエコノミー等のコンサルティングの継続受注により収益を確保 <p>「障がい福祉サービス事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事業所の利用率は堅調に推移 ➢ 報酬改定による収益性の悪化及び待遇改善による人件費の増加 					

セグメント利益四半期推移



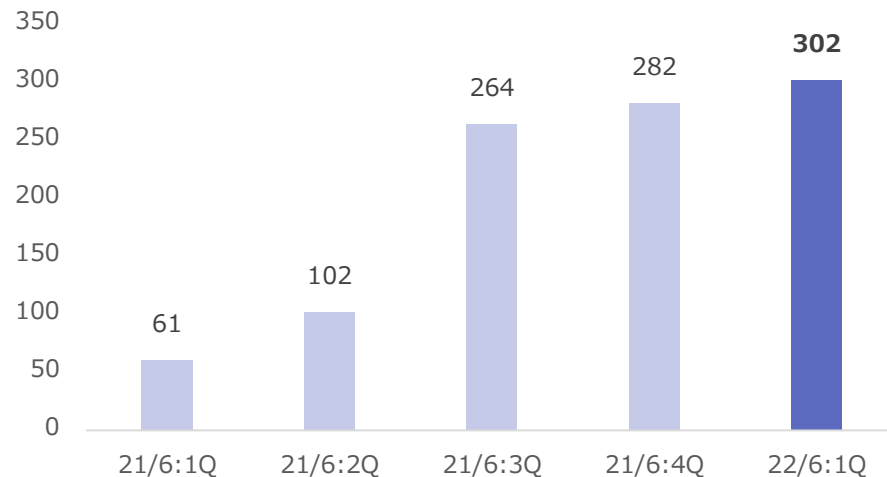
資源循環事業

(単位：百万円)



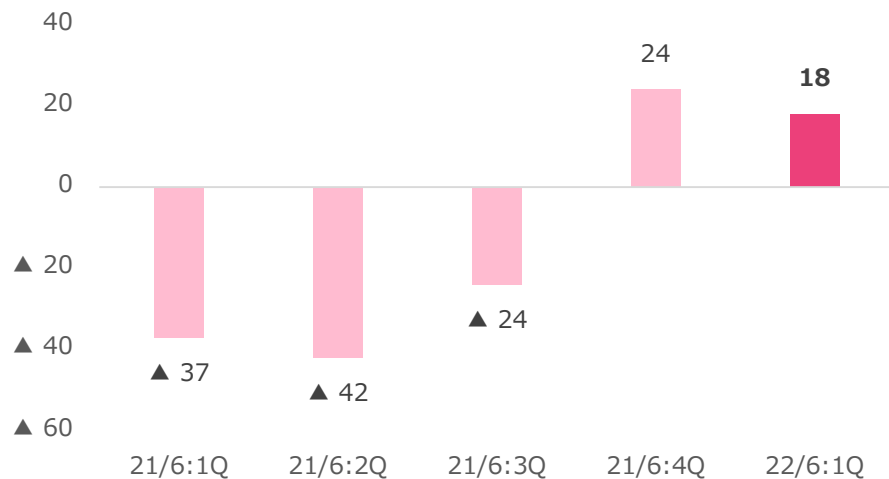
グローバルトレーディング事業

(単位：百万円)



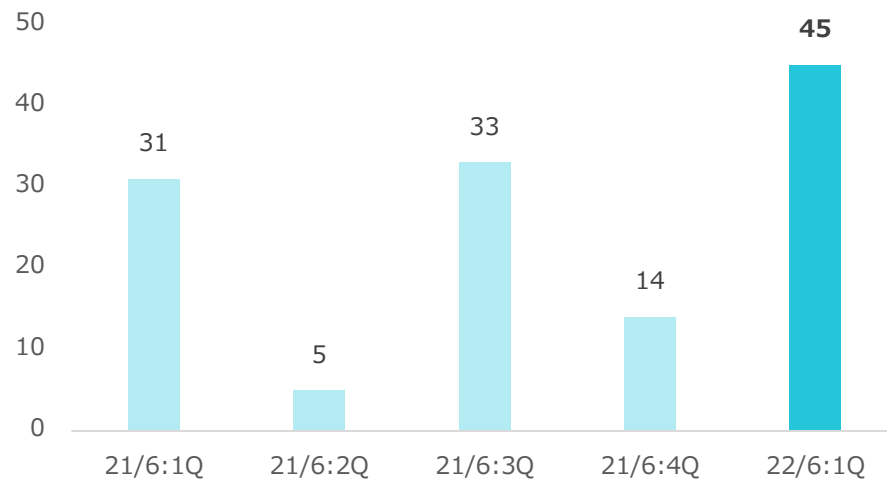
リチウムイオン電池リサイクル事業

(単位：百万円)



その他

(単位：百万円)



連結貸借対照表概要



(単位：百万円)

	2021年 6月末	2021年 9月末	前期末比 増減額		2021年 6月末	2021年 9月末	前期末比 増減額
流動資産	17,500	17,021	▲ 479	流動負債	9,765	9,310	▲ 454
固定資産	9,048	9,270	222	固定負債	3,450	3,335	▲ 114
（有形固定資産）	6,119	6,207	87	負債合計	13,215	12,646	▲ 569
（無形固定資産）	66	67	1	純資産	13,333	13,646	312
（投資その他の資産）	2,862	2,995	133	（自己資本）	12,959	13,259	300
資産合計	26,548	26,292	▲ 256	負債純資産合計	26,548	26,292	▲ 256

主要TOPICS（前期末比）

- 流動資産（現金及び預金575百万円、商品及び製品▲880百万円、受取手形及び売掛金▲603百万円）
- 固定資産（投資有価証券133百万円、建設仮勘定118百万円、建物及び構築物▲32百万円）
- 流動負債（短期借入金500百万円、支払手形及び買掛金▲437百万円、未払法人税等▲373百万円）
- 固定負債（長期借入金▲100百万円）
- 自己資本比率 50.4%（2021年6月末 48.8%）

2. 2022年6月期 見通し

2022年6月期連結業績見通し



連結業績予想

売上高	54,000百万円	(前期比	31.9%増)
営業利益	2,390百万円	(前期比	12.2%増)
経常利益	2,850百万円	(前期比	13.6%増)
当期純利益※	1,950百万円	(前期比	30.7%増)

業績予想の前提条件

鉄スクラップ	電気銅	金	銀	ニッケル	コバルト	為替
50,000円/t	1,000,000円/t	6,000円/g	85,000円/kg	1,800円/kg	4,650円/kg	105円/USD

主要TOPICS

- コロナ禍で先行きが不透明ながらも金属スクラップの需要は増加することを予想
- 資源価格の前提条件は前期末の水準に基づき予想
- 金銀滓※回収量の増加
- 広域の解体・片付け案件の取り組み強化
- 輸出・輸入・三国間貿易と集荷ヤードの拡大
- リチウムイオン電池リサイクル事業の既存工場拡張、湿式製錬事業の調査を推進
- 気候変動関連及びサーキュラーエコノミーコンサルティングの需要増加
- 生産性の向上と一般管理費見直しによる固定費削減の効果を継続

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※金銀滓：金、銀、銅、プラチナ、パラジウムの混合物

2022年6月期連結業績見通し



(単位：百万円)

	2021年6月期 通期	2022年6月期 通期	前期比		2022年6月期 第1四半期	
	実績	予想	増減額	増減率	実績	進捗率
売上高	40,933	54,000	13,066	31.9%	14,292	26.5%
売上総利益	8,364	9,397	1,032	12.3%	2,600	27.7%
営業利益	2,130	2,390	259	12.2%	795	33.3%
経常利益	2,508	2,850	341	13.6%	921	32.3%
税金等調整前当期純利益	2,101	2,856	754	35.9%	926	32.4%
当期純利益※	1,491	1,950	458	30.7%	666	34.2%
限界利益※	8,023	8,800	776	9.7%	2,269	25.8%
EBITDA※	2,868	3,153	285	9.9%	962	30.5%
純粋固定費※	5,895	6,379	484	8.2%	1,474	23.1%
ROE	12.1%	14.2%	2.1%	17.3%	—	—

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

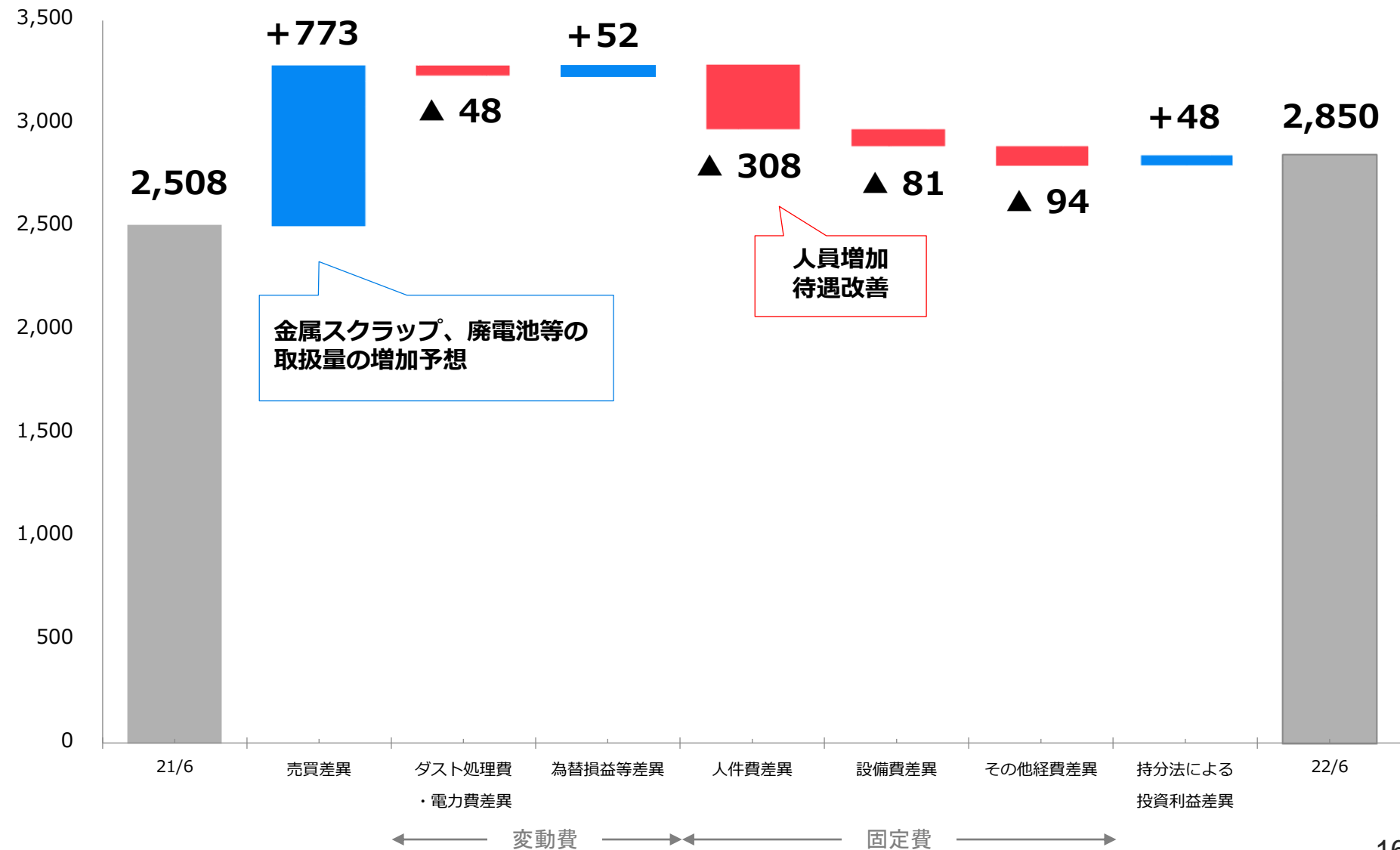
※限界利益 = 売上高 - 変動費

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

※純粋固定費 = 【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】 - 【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

連結経常利益差異分析（前期比）

(百万円)



2022年6月期セグメント別業績見通し



(単位：百万円)

売上高	2021年6月期 通期	2022年6月期 通期		前期比		2022年6月期 第1四半期	
	実績	予想	構成比	増減額	増減率	実績	進捗率
連結	40,933	54,000	100.0%	13,066	31.9%	14,292	26.5%
資源循環事業	14,216	17,325	28.2%	3,108	21.9%	4,762	27.5%
グローバルトレーディング事業	31,033	43,223	70.3%	12,190	39.3%	11,109	25.7%
リチウムイオン電池リサイクル事業	356	477	0.8%	120	33.8%	147	30.8%
その他	354	406	0.7%	51	14.6%	127	31.4%
調整額	▲ 5,026	▲ 7,432	—	▲ 2,405	—	▲ 1,853	—

セグメント利益	2021年6月期 通期	2022年6月期 通期		前期比		2022年6月期 第1四半期	
	実績	予想	構成比	増減額	増減率	実績	進捗率
連結	2,508	2,850	100.0%	341	13.6%	921	32.3%
資源循環事業	2,080	2,339	72.3%	259	12.5%	685	29.3%
グローバルトレーディング事業	711	816	25.3%	104	14.8%	302	37.0%
リチウムイオン電池リサイクル事業	▲ 80	3	0.1%	83	—	18	538.7%
その他	84	74	2.3%	▲ 9	▲ 11.5%	45	61.2%
調整額	▲ 287	▲ 384	—	▲ 96	—	▲ 130	—

3. 中期経営計画と今期の取り組み

- 中計 ～サステナビリティ戦略の概要～
- 今期の取り組み
 - ①リチウムイオン電池リサイクルの技術開発
 - ②金銀滓回収事業の拡大
 - ③バイオマス燃料等製造会社のグループ化
 - ④広域の片付け・解体事業の強化
- 企業価値創造の長期的取り組み（イメージ図）

中計 ～サステナビリティ戦略の概要～ (2021年7月～2026年6月)



売上高		経常利益		ROE	
700億円		40億円		15.0%	
(2026年6月期)		(2026年6月期)		(2026年6月期)	
291億円	409億円	8億円	25億円	8.0%	12.1%
(2016年6月期)	(2021年6月期)	(2016年6月期)	(2021年6月期)	(2016年6月期)	(2021年6月期)

企業理念
最も大切にしている価値観でありDNA
(時間軸なし)

「脱炭素社会」「循環型社会」「分散型社会」
実現に向けた課題解決を
事業機会としてチャレンジしていく

ミッション
持続可能社会実現の一翼を担う
存在意義、一定の時間軸での目的・志
(2050年までの30年間)

「企業価値向上に必要な組織の個別機能を鍛える」
「ガバナンスを強化する」
「良質なエネルギーに満ちた場をつくる」

中期経営計画
(2021/7～2026/6)
長期ビジョン実現のための戦略

【事業コンセプト】
サーキュラーエコノミーの具体的事例の実現
【事業の方向性とそのための主な手法】
地上資源由来の素材メーカーに変革(QCDC)
全国レベルの回収網確立
経営活動の全てのプロセスでGX、DXの推進

単年度事業計画
中期経営計画を達成するための
具体的な取り組み

【目指す姿】
社会インフラとしてのリサイクル業に成長
【組織のイメージ】
創発的能力を備えた自律した個人の規律ある集団

前提条件 (2022年7月以降)

鉄スクラップ	電気銅	金	銀	ニッケル	コバルト	為替
42,000円/t	1,000,000円/t	6,000円/g	85,000円/kg	1,800円/kg	4,650円/kg	105円/USD

事業戦略を推進するために

圧倒的技術優位性を保有し、それを常に革新し続ける。

高い技術力とノウハウを背景にした組織的営業力を強化し、それを常に鍛え続ける。

ダイナミックな国際的流通力を保有し、それを常にレベルアップし続ける。

■ 「既存事業の深化」 「新規事業の探索」 「事業ポートフォリオの最適化」

資源循環事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 落じん灰回収自治体の拡大 ・ 全国を視野に入れた広域の片付け・解体事業の強化 ・ 新工場の建設 ・ 大型シュレッダーの設置 ・ プラスチック資源循環促進法への対応 ・ M&Aの推進
グローバルトレーディング事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出・輸入・三国間貿易と国内外の集荷ヤードの拡大 ・ 鉄・非鉄金属・特殊金属・貴金属の全ての金属スクラップ取組みの推進 ・ 新規商材の開発
リチウムイオン電池リサイクル事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新規ブラックマス工場の建設 ・ アライアンスの構築 ・ 湿式製錬プラントの設置
(その他) 障がい福祉サービス事業 環境経営コンサルティング事業		<ul style="list-style-type: none"> ・ 就労支援の充実・農福連携の成長で障がい者雇用の促進 ・ TCFD等の気候変動関連及びサーキュラーエコノミーコンサルティングの拡大によるグループシナジー

①リチウムイオン電池リサイクルの技術開発

エマルションフロー技術を用いたLIBからのレアメタル回収の共同研究を開始 (2021年8月2日公表)

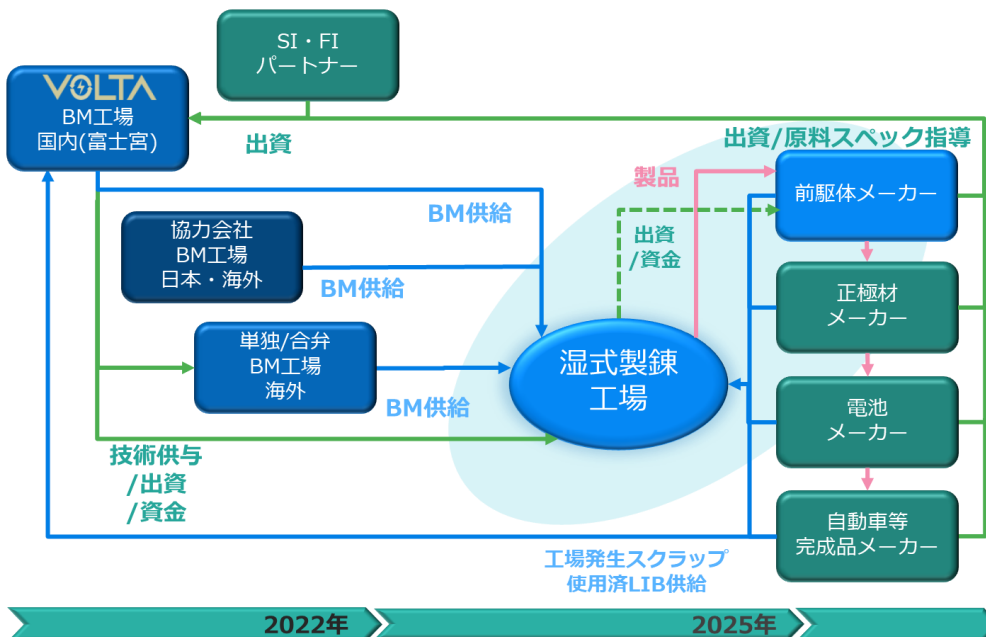
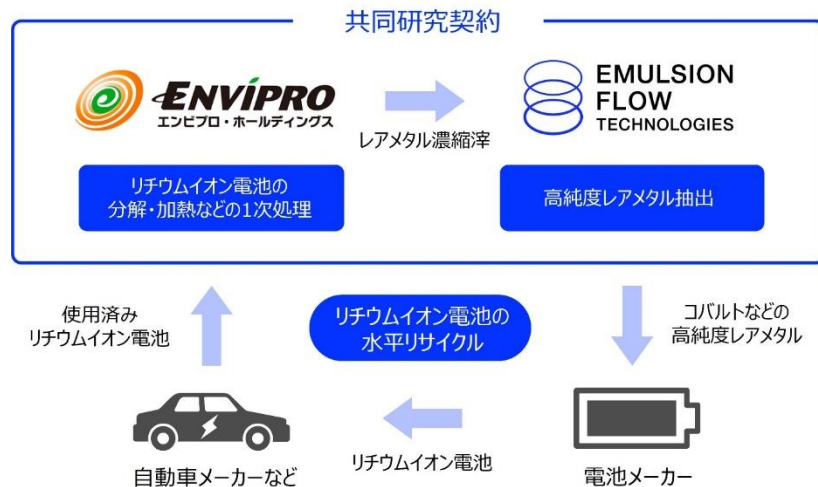
〈各社の役割〉

当社

- ・ LIBの集荷、1次処理したレアメタル濃縮滓の提供
- ・ 溶媒抽出技術の各種知見の提供

エマルションフローテクノロジーズ

- ・ エマルションフロー装置のスケールアップ開発
- ・ エマルションフローによるレアメタル抽出フロー開発



LIBリサイクルで協業できる会社（同業者、LIB製造メーカー等）と技術、資金、商材でアライアンスを組む

これまでの取り組み

- 2010年 LIBリサイクルの研究開発を開始
- 2018年 株式会社VOLTA設立
LIBリサイクル事業に参入
- 2020年 リサイクル設備稼働
ニッケル、コバルト、リチウムを含む
レアメタル濃縮滓の生産・販売を開始

今後の取り組み

- 2022年度 既存レアメタル濃縮滓製造工場の拡張
- 2025年度 湿式製錬工場を稼働
- 2025年度以降
前駆体製造
クローズドループ（電池to電池）構築

②金銀滓回収事業の拡大

連結子会社エコネコルが、「落じん灰・廃棄物破碎残渣・ミックスメタルのリサイクル」による金銀滓回収拡大を目的に新工場の建設を開始（2021年9月28日公表）

新工場の概要

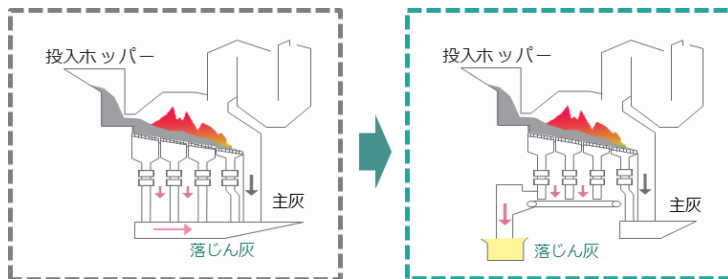
- | | |
|-------------|---------------|
| (1) 建設予定地 | 静岡県富士市前田758-1 |
| (2) 敷地面積 | 13,259㎡ |
| (3) 工場延床面積 | 6,040㎡ |
| (4) 総投資予定金額 | 約15億円 |
| (5) 資金調達方法 | 自己資金及び借入金 |
| (6) 着工時期 | 2021年10月 |
| (7) 竣工予定時期 | 2022年12月 |



(新工場の完成予想図)

落じん灰からの貴金属回収

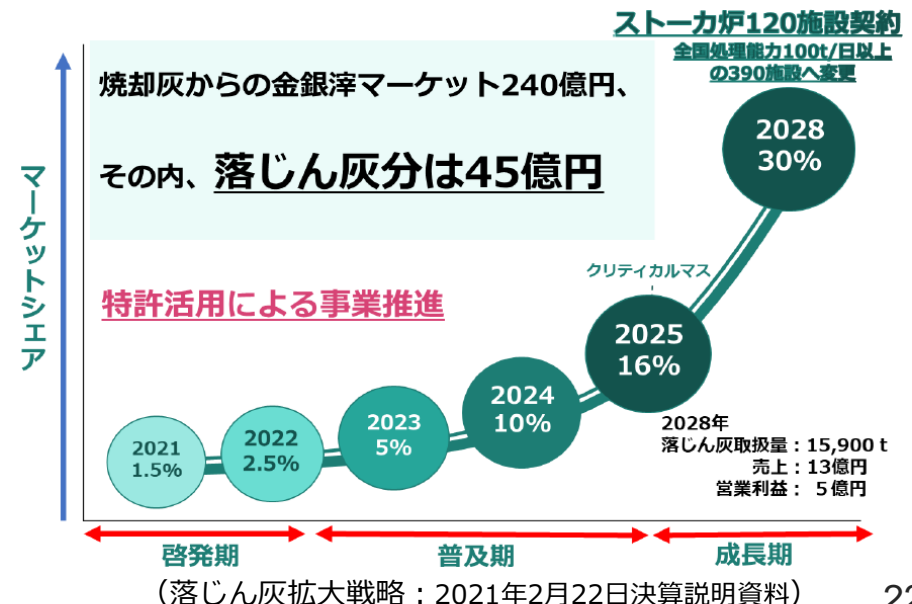
落じん灰を焼却炉から直接別取りできる改造を自治体が実施し、それをグループ各社が購入し、自社のプラントで効率的な貴金属回収を実現



(落じん灰別取り改造イメージ)

自治体のメリット

- ①落じん灰の売却益を得られる
- ②落じん灰分の重量の埋め立て費用が削減される
- ③主灰側に行く重金属の含有比率が下がるのでキレート等の費用が削減される



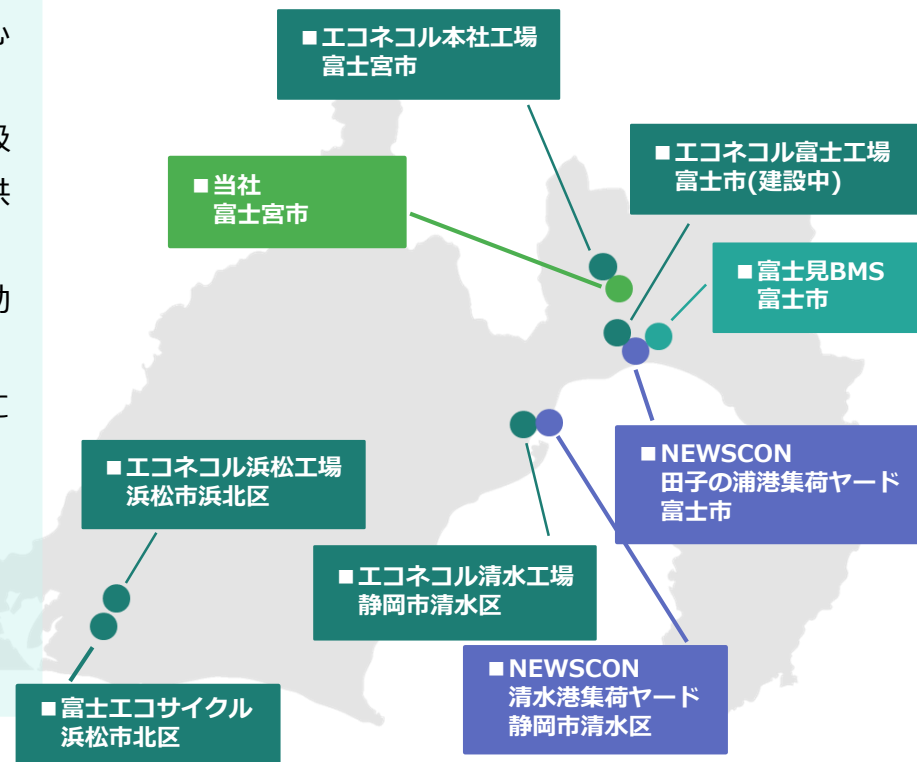
③ バイオマス燃料等製造会社のグループ化

産業廃棄物である木くずを破碎し製紙原料、バイオマス燃料等となる木質チップを製造し販売する、富士見BMSを11月に孫会社化（2021年10月25日公表）

資源循環事業の主要事業拠点である静岡県でのドミナント戦略を推進

富士見BMSのグループ化により期待する効果

- ① エコネコルの主要事業エリアである静岡県東部地区を中心とした廃棄物の取扱量増加
- ② エコネコルで主に取扱う金属・プラスチックに加え、取扱いの少なかった木くずの処理を広くお客様へサービス提供できることによる顧客利便性の向上
- ③ 共通の事業エリアにおける人的資本の相互活用を通じた効率的な営業活動(仕入・販売)
- ④ 技術・ノウハウの共有による最適化された生産体制構築による生産効率化
- ⑤ エコネコルの富士市の新工場（2021年9月28日付公表）との有機的なつながりによる事業基盤強化
- ⑥ 2050年カーボンニュートラル実現を背景としたバイオマス原燃料の需要拡大への対応



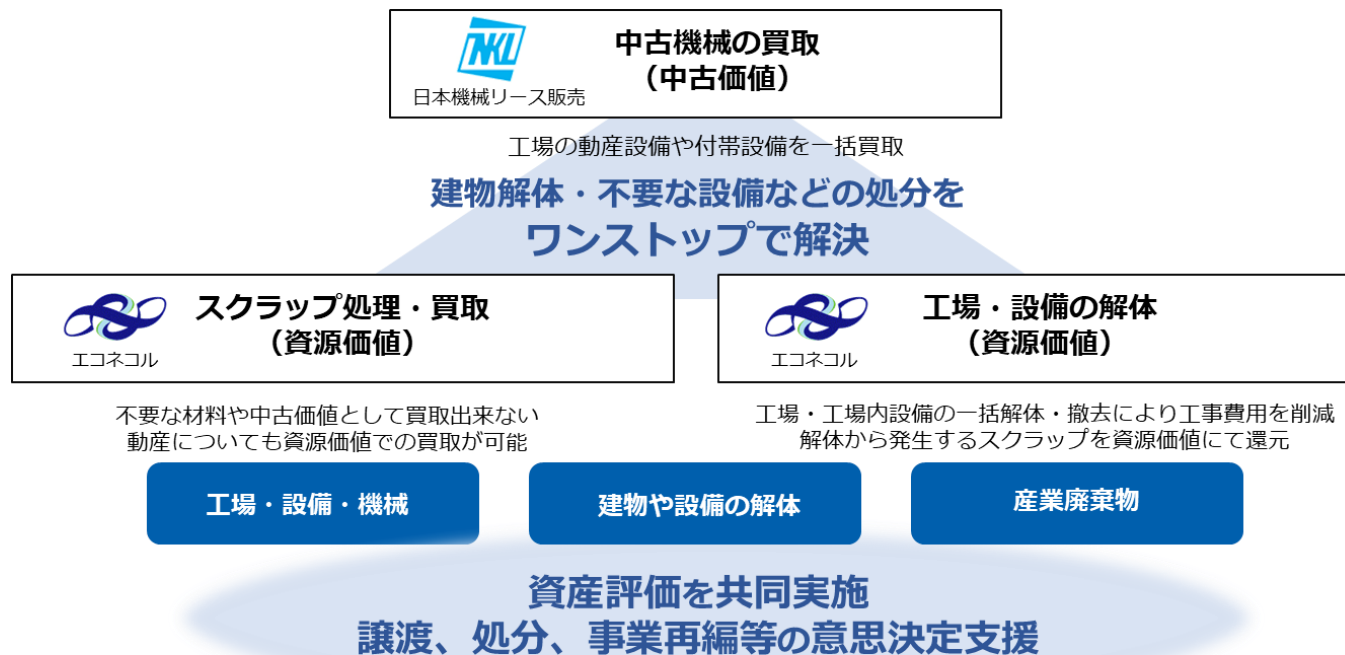
(静岡県内事業所MAP)

④広域の片付け・解体事業の強化

三井住友トラスト・パナソニックファイナンス及び日本機械リース販売と「資産評価を伴う解体・設備処分のワンストップサービス」の提供を目的に業務提携（2021年11月12日公表）

資産評価を伴う解体・設備処分のワンストップサービス

エコネコルが長年培ったスクラップ処理・解体のノウハウと、日本機械リース販売の機械設備の査定・売買機能などモノに対する知見を活用し、固定資産の評価、不要となった機械等の再販、資源化まで一貫したサービスを提供

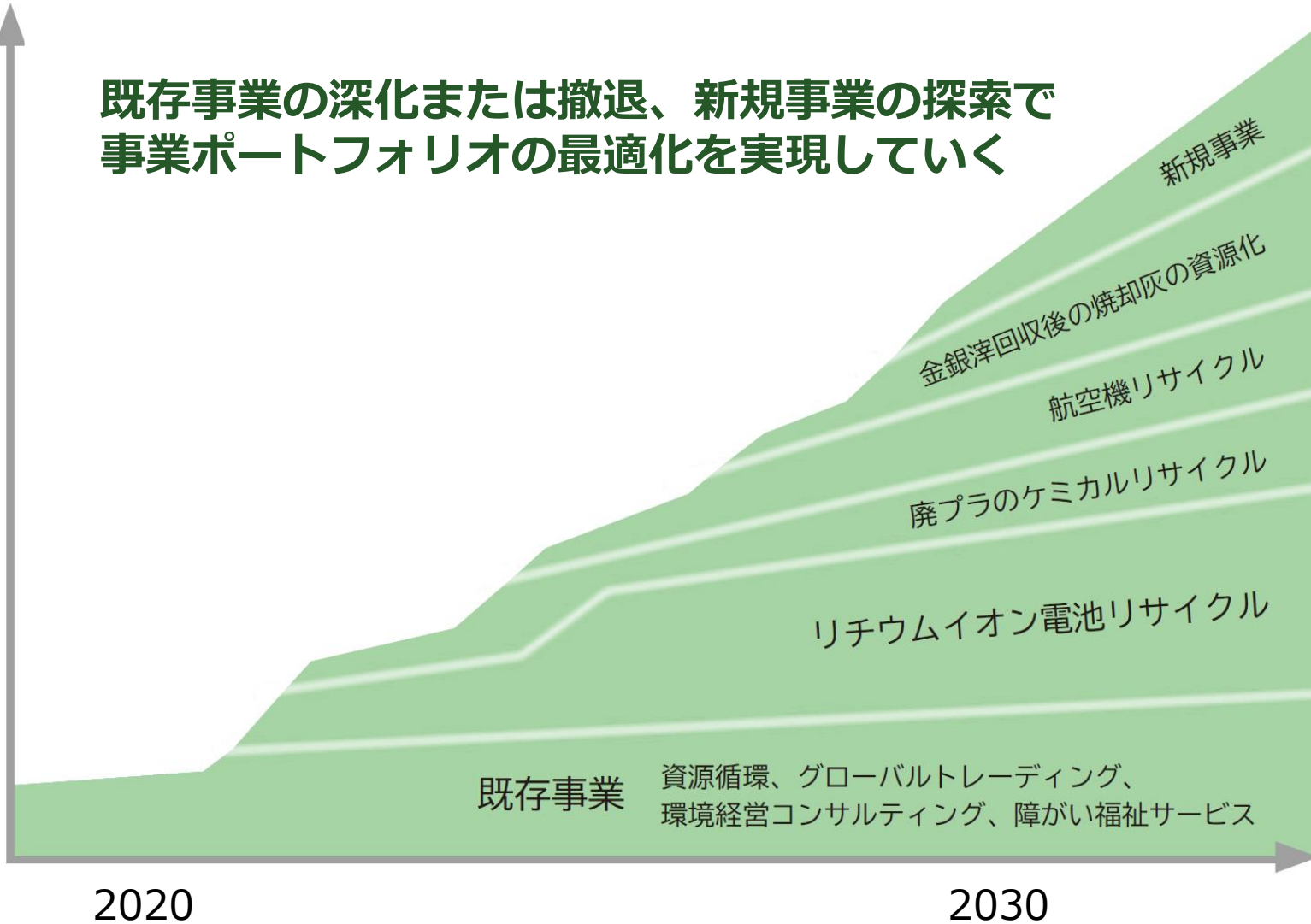


業務提携により情報アンテナ機能・リユース品対応機能を強化。全国を視野に廃棄物の適正処分・金属スクラップの買取り・中古品の売買・工場及びプラントの解体・土壌の浄化を一貫して行い、お客さまの利便性向上に努める。

企業価値創造の長期的取り組み（イメージ図）

既存事業の深化または撤退、新規事業の探索で
事業ポートフォリオの最適化を実現していく

企業価値

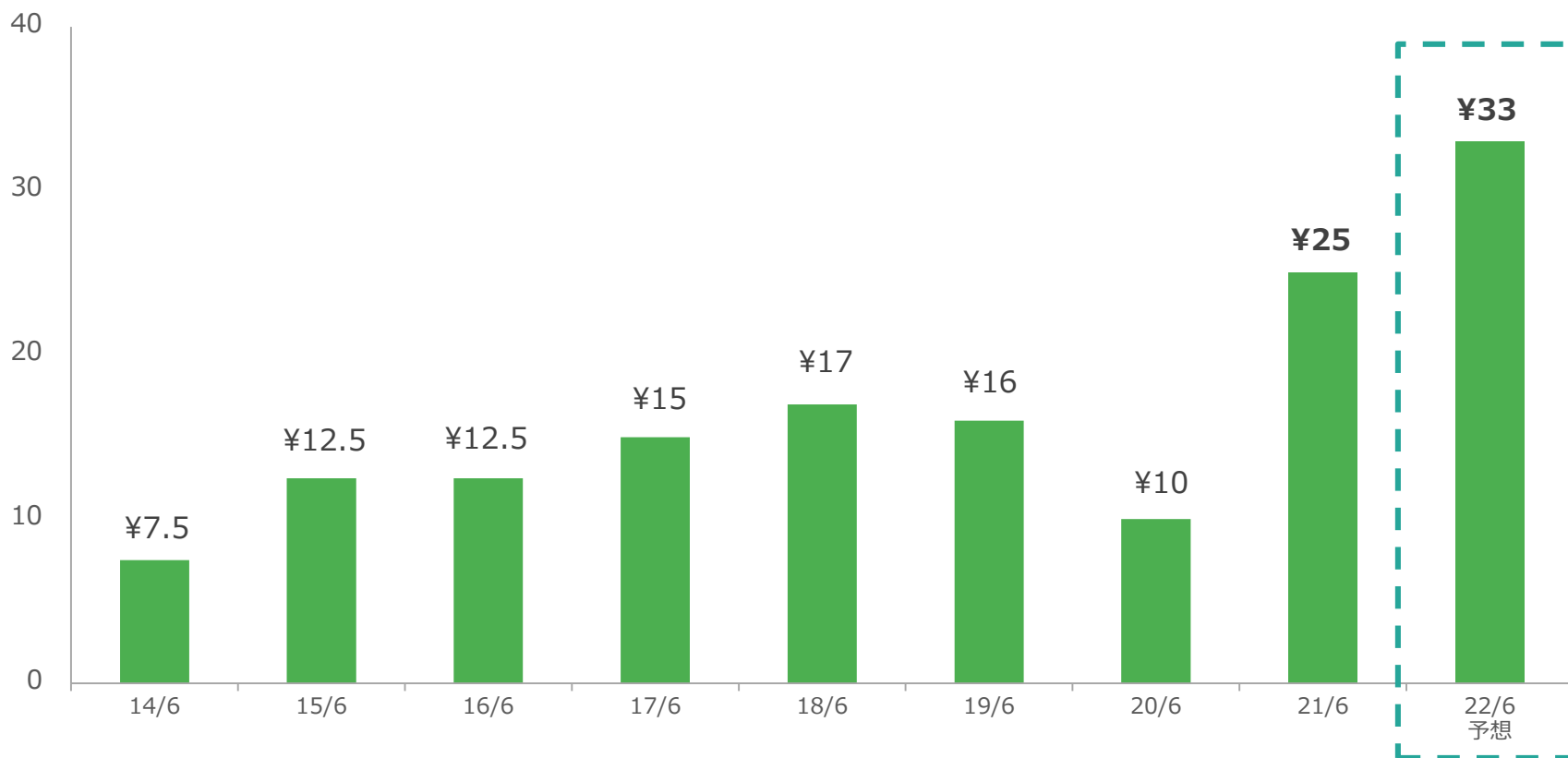


グループシナジー

4. 配当方針

当社の配当基本方針

- 内部留保等を総合的に勘案しながら、長期的な視野に立ち、安定的かつ継続的な利益還元を行うことを基本方針とする。
- 業績連動利益配分の指標として連結配当性向 20~30%を目標とする。
- 連結配当性向に基づく配当金が年間 10 円を下回る場合にも、年間 10 円の安定配当を目指す。



※2018年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っています。
1株当たり配当金は2014年6月期以前から株式分割が行われたと想定して算定しています。

5. 參考資料

品種別取扱量

(単位：千t)

品目	2020年 6月期 通期	2021年 6月期 通期	2022年 6月期 1Q
鉄	601	578	164
非鉄金属	33	21	4
金銀滓※	2	3	0.9
ゴム製品	12	10	2
RPF等燃料、製紙原料等	46	57	13
ブラックマス等※	—	0.6	0.2
その他	23	20	4
合計	719	693	188

(単位：kg)

品目	2020年 6月期 通期	2021年 6月期 通期	2022年 6月期 1Q
金回収量	70	71	15
銀回収量	1,069	1,244	305

※金銀滓：金、銀、銅、プラチナ、パラジウムの混合物

※ブラックマス：カーボンが含有されているコバルト、ニッケルの濃縮滓

地域別売上高

(単位：億円)

地域	2020年 6月期 通期	2021年 6月期 通期	2022年 6月期 1Q	
日本	117	197	65	
東アジア	韓国	82	73	41
	台湾	8	13	1
	その他	3	8	2
東南アジア	ベトナム	60	93	22
	その他	33	13	3
南アジア	インド他	4	3	1
西アジア	UAE他	6	1	1
南米	チリ他	8	2	2
アフリカ	ウガンダ他	3	1	0
その他	—	10	0	0
合計	338	409	142	

セグメント別業績四半期推移

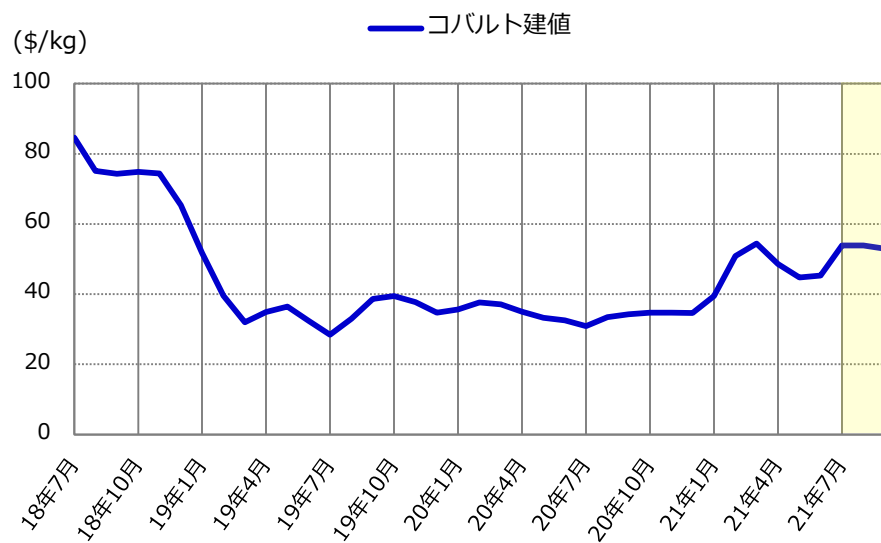
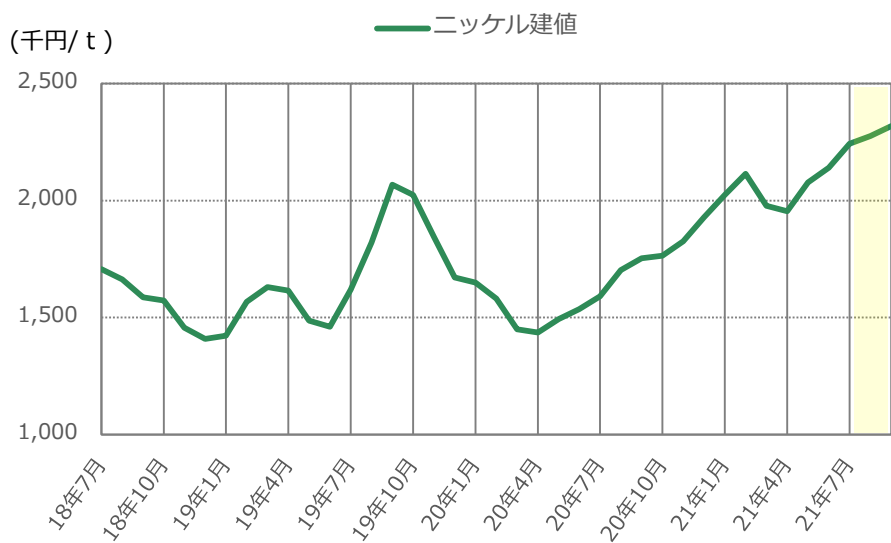
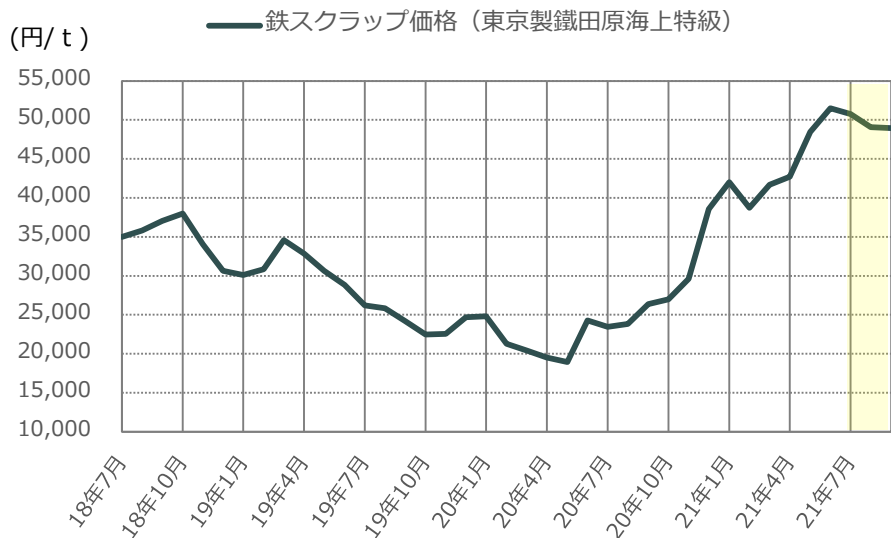


(単位：百万円)

セグメント	2021年6月期						2022年6月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	構成比	1Q	構成比	
資源循環事業	売上高	2,795	3,194	3,730	4,496	14,216	30.9%	4,762	29.5%
	経常利益	242	494	619	723	2,080	74.4%	685	65.2%
	経常利益率	8.7%	15.5%	16.6%	16.1%	14.6%	—	14.4%	—
グローバル トレーディング事業	売上高	5,356	6,914	7,558	11,204	31,033	67.5%	11,109	68.8%
	経常利益	61	102	264	282	711	25.4%	302	28.7%
	経常利益率	1.2%	1.5%	3.5%	2.5%	2.3%	—	2.7%	—
リチウムイオン電池 リサイクル事業	売上高	62	62	68	162	356	0.8%	147	0.9%
	経常利益	▲37	▲42	▲24	24	▲80	▲2.9%	18	1.8%
	経常利益率	—	—	—	15.0%	—	—	12.9%	—
その他	売上高	94	71	100	86	354	0.8%	127	0.8%
	経常利益	31	5	33	14	84	3.0%	45	4.3%
	経常利益率	32.8%	8.2%	33.0%	16.3%	23.8%	—	35.9%	—
調整額	売上高	▲870	▲1,066	▲1,198	▲1,891	▲5,026	—	▲1,853	—
	経常利益	▲81	▲63	▲138	▲3	▲287	—	▲130	—
	経常利益率	—	—	—	—	—	—	—	—
連結	売上高	7,439	9,176	10,259	14,058	40,933	100.0%	14,292	100.0%
	経常利益	216	496	754	1,040	2,508	100.0%	921	100.0%
	経常利益率	2.9%	5.4%	7.4%	7.4%	6.1%	—	6.4%	—

※セグメント利益は経常利益で記載をしております。

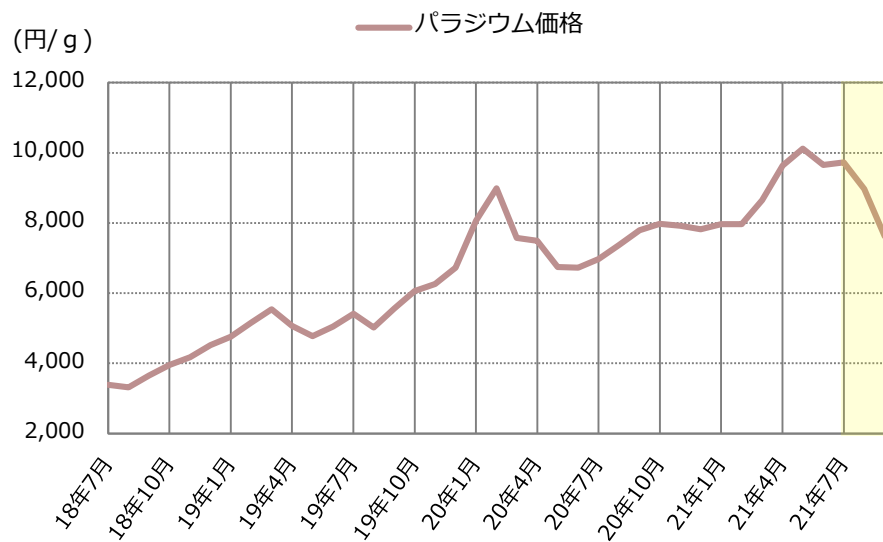
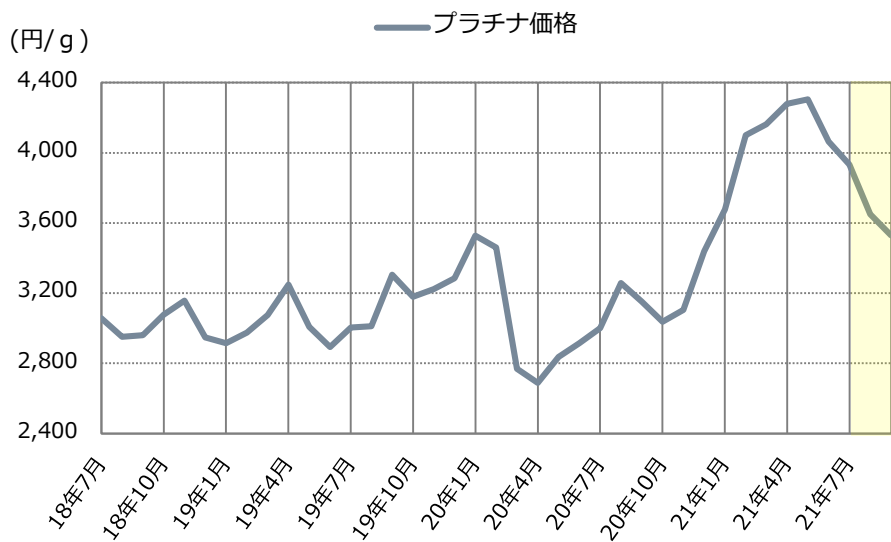
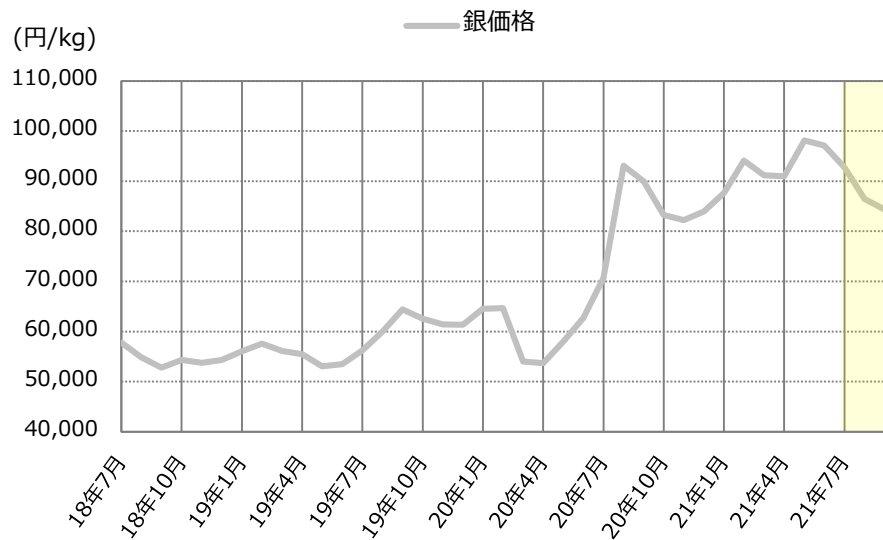
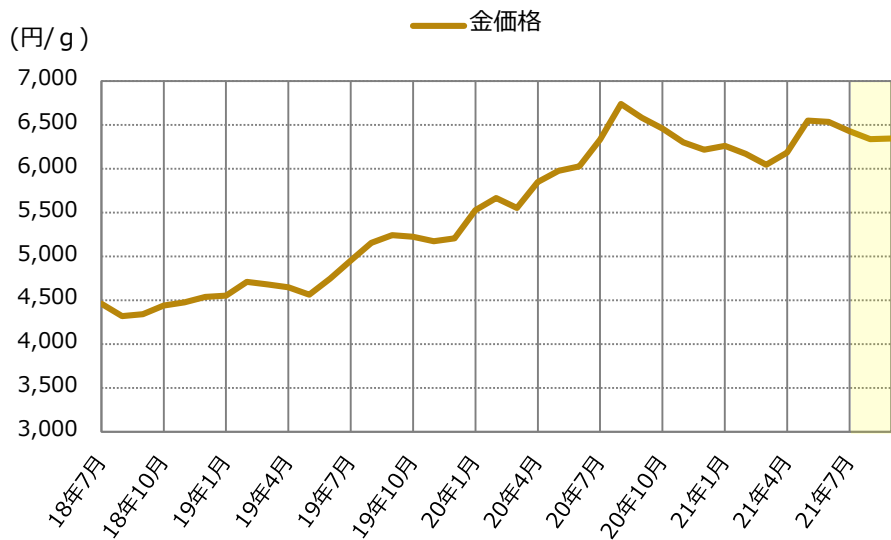
相場推移①



(出所) 東京製鐵(株)、日刊産業新聞

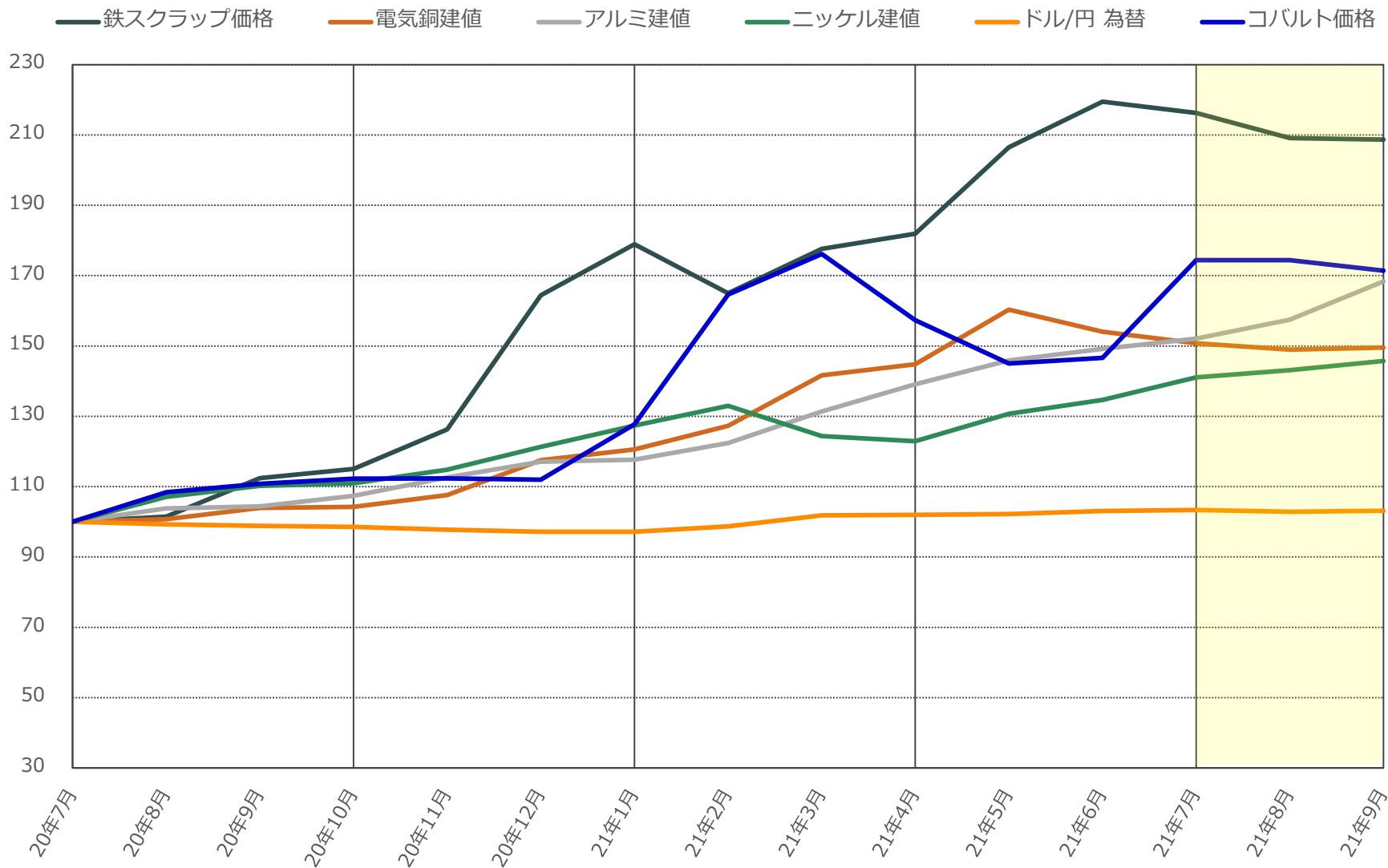
(出所) J X 金属(株)、IRuniverse(株)

相場推移②



相場推移③

金属相場の推移 (INDEX推移 2020年7月を100とする)



- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】

株式会社エンビプロ・ホールディングス 経営企画部

TEL (0544) 21-3160

URL <https://www.envipro.jp/>